

令和2年度 西東京市立芝久保小学校 学校自己評価表

＜学校教育目標＞		自他の人権を尊重し、よりよい国際社会を築くための資質や能力の伸長を図る。自ら学び、自ら考え、元気で心豊かな思いやりのある児童の育成を目指す。 ○粘り強く考える子 自己の目標をもち、よく考え、他者の考えを取り入れて課題を解決し、学び続ける児童を育てる ○仲良くする子 生命の尊さや自他のよさに気付き、規範意識をもち、相互に思いやり、励まし合える児童を育てる ◎元気に活動する子 健康に留意し、規則正しい生活習慣を身に付け、運動に親しみ、進んで心身を鍛える児童を育てる										学校関係者評価【書面開催】 A…評価は適切である B…評価に一部改善が必要である C…全体的に改善が必要である	
----------	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

＜目指す学校像・児童像・教師像＞		学校教育の成果を継承しつつ、「不易」と「流行」を見極めて、改革・改善を図る。創造性と先進性のある学校経営を進め、保護者や地域の信頼に応える学校を目指す。 ○目指す学校像 児童の学びを大切に、保護者、地域とともに歩む学校 ○目指す児童像 進んで学び、よく考えて判断し、発言し行動する児童 ○目指す教師像 教育のプロとしての自覚と、誇りと情熱をもった教師									
------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

領域	中期経営目標	番号	短期経営目標	具体的方策	努力目標		成果目標		教職員		アンケート	評価(%)	分析	改善策	学校関係者評価欄		
					学年	評価	学年	評価	学年	評価					学年	評価	評価
健康で安全な学校生活	児童の健康と安全の増進	1健	健康に関する教育の啓発・指導の計画的な実施	「手洗い」や「三密対策」など感染症予防の取組や指導を養護教諭と連携して行う。	④	毎日実施	④	児童のできているという評価80%以上	①	4.0	児童	97.2	・コロナ対応の一環として、検温や手洗い動画の活用、感染症についての授業等を行った。そのことで、児童に新しい生活様式を身に付けさせ、健康についての意識を高めることができた。	・今年度のような取組を今後も継続し、定期的実施していくことで、より一層、自己と他者の健康への意識と配慮を高めていく。	A	・コロナ対応を通じて手洗いや消毒の正しい方法を伝え、子どもたちの健康と衛生管理に適切な指導ができていても良かった。 ・今後も感染症予防の取組と指導を続けてほしい。マスク着用と併せて汚れ等の衛生面にも配慮してほしい。	
					3	週に4回実施	3	児童のできているという評価70%以上	②	4.0							
					2	週に3回実施	2	児童のできているという評価60%以上	③	4.0							
					1	週に3回未満実施	1	児童のできているという評価60%未満	④	4.0							
	2健	いじめの未然防止・早期発見・早期対応	いじめ防止に関する授業や教職員の研修を行う。また、いじめ調査や情報交換を定期的に実施し、実態を把握や対応を組織的に取り組む。	④	児童への授業と教職員の研修を合計年5回以上の実施	④	保護者の対策・対応しているという評価80%以上	①	3.5	保護者	87.3	学校は、いじめ対策やいじめ防止についての取組をしている。	・教職員間、教職員と保護者間の連携がしっかり取れていたことが評価につながった。 ・教職員の研修を定期的に行うことで、防止に向けての指導や、いじめにつながりそうな事案を速やかに情報共有することができた。	・いじめ対策がどのように行われているかを保護者や地域の方々に周知していくため、学校いじめ対策基本方針やいじめに関する授業、研修等を実施した際には、学校だよりやホームページ等で発信していく。	A	・子どもたちの心身の健康に努めている様子が感じられる。継続して子どもたちのところに寄り添ってほしい。 ・いじめ調査や授業、研修等の情報や取組を続けていただき、ホームページの更新など改善策に期待している。	
				3	児童への授業と教職員の研修を合計年4回以上の実施	3	保護者の対策・対応しているという評価70%以上	②	3.0								
				2	児童への授業と教職員の研修を合計年3回以上の実施	2	保護者の対策・対応しているという評価60%以上	③	3.6								
				1	児童への授業と教職員の研修を合計年3回未満の実施	1	保護者の対策・対応しているという評価60%未満	④	4.0								
確かな学力の向上	教職員の指導力の向上	3学	芝久保学習スタンダードに基づいた指導の実施	自分の考えをもち、全体で児童同士の意見を確認し合う時間を設定し、授業のまとめを行う。	4	90%以上の授業で実施	④	児童のできているという評価80%以上	①	3.5	児童	94.1	授業は分かりやすい。	・コロナ禍でも、感染症対策を充分に行いながら意見交流の場を設定したことで、授業の分かりやすさにつながった。	・引き続き、芝久保スタンダードに基づいた指導を継続して実施していく。 ・感染症対策に基づいた指導を工夫して実施していく。	A	・子どもたちが元気に通学している環境が感じられる。 ・子どもたちが授業をわかりやすいと感じていることは、学習意欲につながるよい傾向。 ・コロナ禍において、さらに求められる工夫については市内全体での補強が必要だと思う。
					③	80%以上の授業で実施	3	児童のできているという評価70%以上	②	3.3							
					2	70%以上の授業で実施	2	児童のできているという評価60%以上	③	3.0							
					1	70%未満の授業で実施	1	児童のできているという評価60%未満	④	3.3							
	4学	思考力・判断力・表現力等の育成	書く内容を明確化し、自分の意見を書く時間を十分に設定する。	4	90%以上の教科及び単元で実施	④	児童のできているという評価80%以上	①	3.0	児童	83.6	授業では、自分の考えを書いている。	・多くの児童が自分の考えをもち、学習に取り組んでいる。今年度は書く活動を多く取り入れたので、授業中に自己表現ができるようになってきている。	・書く内容の明確化とともに、分かりやすい発問や感染症対策を十分に講じた児童同士の交流をすることで、さらに自分の考えを書くことができるようになる。	A	・参観授業が少なく学習の様子が見られなかったのは残念に思う。 ・自己表現できる力が、子どもたち自身が学校生活を安心しておくれることに繋がるように願う。	
				③	80%以上の教科及び単元で実施	3	児童のできているという評価70%以上	②	3.0								
				2	70%以上の教科及び単元で実施	2	児童のできているという評価60%以上	③	3.3								
				1	70%未満の教科及び単元で実施	1	児童のできているという評価60%未満	④	3.4								
豊かな心の育成	生活指導・道徳教育の充実	5健	小中一貫教育に関する生活指導の共通理解・共通実践	「あいさつ」や「靴の入れ方」などのきまりや掲示物を統一し、小中一貫した指導法を実践する。	④	月2回以上指導の実施	④	児童の取り組んでいるという評価80%以上	①	4.0	児童	92.7	靴の入れ方や学校のきまりを守っている。	・学校生活のきまりや靴の入れ方などについて校内放送をしたり学校全体で共通指導したりした結果、児童が落ち着いて生活できていた。 ・児童自身が、登下校時のあいさつや靴をそろえて入れるなどのきまりを守ろうという意識が高まった。	・校内放送で全校児童に生活のきまりについて話すことを継続していき、全校共有の認識をもたせていく。 ・地域の小中学校との連携を図りながら、ウィズコロナに対応した学校生活のきまりを設定し、児童が中学校生活に円滑に対応していける環境を整えていく。	A	・校内放送による全校共有はとても評価できる。自分から進んで行うことができるとより良い。 ・今までの生活との違いを受け入れ、子どもたちへの指導と環境づくりに力を入れている様子が見られる。 ・小中一貫教育は、このように生活指導の中にも取り入れられるのだと知った。
					3	月1回以上指導の実施	3	児童の取り組んでいるという評価70%以上	②	3.6							
					2	2ヶ月に1回以上の指導の実施	2	児童の取り組んでいるという評価60%以上	③	4.0							
					1	2ヶ月1回未満指導の実施	1	児童の取り組んでいるという評価60%未満	④	3.8							
	6学	自己を見つめ、よりよく生きようとする児童を育成する道徳科の推進	道徳的価値の理解や、自己の生き方についての考えを深めさせるために、指導法を工夫する。	4	90%以上の授業で実施	④	保護者の取組をしているという評価80%以上	①	2.5	保護者	91.0	学校は、道徳教育に力を入れ、豊かな心を育む取組をしている。	・前年度に比べて、数値は、1.1%減少している。考えられる要因としては、コロナ禍で、土曜授業や道徳授業地区公開講座で保護者の参観ができなかったことが挙げられる。	・物事を多面的・多角的に捉え、道徳的価値を高めることができるよう、今後も指導していく。 ・コロナ禍でも、保護者の方に情報を発信できるように、引き続き、各種のたよりやホームページを通して、発信していく。	A	・道徳でコロナを取り上げたり、保護者へも発信をしたり、今まで授業で取り組んできた道徳を、実践的に取り組んでいて良いと感じる。自分事として捉えることができたのではないかと感じる。 ・授業を参観できなかったのは残念。仕方ないが、コロナ禍のため双方向からの理解を深めることの限界を感じる。	
				③	80%以上の授業で実施	3	保護者の取組をしているという評価70%以上	②	3.0								
				2	70%以上の授業で実施	2	保護者の取組をしているという評価60%以上	③	3.3								
				1	70%未満の授業で実施	1	保護者の取組をしているという評価60%未満	④	3.5								
保護者や地域との連携	保護者・地域と連携の推進	7経	家庭や地域への積極的な情報提供	学校ホームページを適切に更新する。	④	月3回以上更新	4	保護者の取組をしているという評価80%以上	①	4.0	保護者	74.3	学校は、ホームページを適切に更新している。	・保護者アンケートによると、他の項目に比べて、低い数値を示している。 ・「新着情報」の更新回数は、9月15回、10月13回、11月11回、12月14回、給食は毎日掲載しており、昨年度に比べて更新率は高いことから、着目度が低いのではないかと考えられる。	・日々の授業や行事などの学校生活について、こまめな更新による発信を継続する。 ・ホームページを開覧してもらうための広報活動を工夫していく。	B	・ホームページへ情報がこまめに公開されており学校教育への理解が高まった。教職員の日々の熱意と努力が伝わる。コロナ禍で情報発信の重要性が高まっているので、今後も更新頻度は大切だと思う。 ・更新情報、掲載情報がタイムリーに共有できないのはもったいない。学校だよりや学年だよりにQRコードを掲載する、メールで更新を伝えるなどの仕組みを作ることで見てもらえるようになるのではないかと。
					3	月2回以上更新	③	保護者の取組をしているという評価70%以上	②	4.0							
					2	月1回以上更新	2	保護者の取組をしているという評価60%以上	③	4.0							
					1	月1回未満更新	1	保護者の取組をしているという評価60%未満	④	4.0							
	8健	誠実かつ迅速に対応する組織運営	校内での報告、連絡、相談を迅速に行い、保護者の質問や相談に誠実かつ組織的に対応する。	④	事案発生直後	④	保護者の対応しているという評価80%以上	①	4.0	保護者	95.8	学校は、保護者からの相談に迅速・誠実に対応している。	・保護者から、相談を受けた際、必要な対応策を考えて共有し、速やかに実行したことが高い評価につながったと考えられる。 ・学級内、学年内での相談等についても、迅速に話し合う時間を設けたり、全職員で事案を共有したりできていた。	・今後も保護者からの質問や相談には迅速に対応し、必要に応じて全職員でよりよい対応策を考えて実践していく。 ・報告、連絡、相談を素早く行い、安心して児童が学校生活を送れるように、今後も継続して、全教職員が共通理解をして教育活動を行っている。	A	・評価の高さから、きちんと対応していることが伺える。学校だよりやメール配信からも伝わってきた。 ・メール等で、行事の変更や学校での様子などが報告されるようになり、手紙より迅速で良いと感じる。	
				3	事案発生当日	3	保護者の対応しているという評価70%以上	②	4.0								
				2	事案発生翌日	2	保護者の対応しているという評価60%以上	③	4.0								
				1	事案発生2日以上後	1	保護者の対応しているという評価60%未満	④	3.8								
業務の改善	働き方改革の推進	9経	働きやすい環境づくり	担当している教室等の5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）を実施する。	④	週に1回以上実施	④	教職員の実施しているという評価80%以上	①	3.5	教職員	88.9	担当している教室等の5S（整理・整頓・清掃・清潔・習慣化）を実施している。	・毎日の消毒作業や日々の整理整頓を行うことで、校内を清潔に保つことができた。また、休校期間には職員室や教材室、2学期には放送室内と、順次、整理整頓を進めている。	・整理整頓については、共有で使用している場所の整理状況を把握し、引き続き整頓を計画的に進めていく。 ・特に、パソコン室については来年度からのGIGAスクール実施に向けて、年度内に整理整頓を実施していく。	A	・教職員の日々の努力によって校内の安全、衛生面等の取組がされていることに感謝している。 ・感染症対策にかかる時間などが勤務時間（環境）に影響しているのではないかと感じている。健康管理に努め、良い体制づくりをお願いしたい。
					3	月に2回以上実施	3	教職員の実施しているという評価70%以上	②	3.6							
					2	月に1回以上実施	2	教職員の実施しているという評価60%以上	③	3.0							
					1	月に1回未満実施	1	教職員の実施しているという評価60%未満	④	3.6							
	10経	教職員の負担感の軽減	各種スタッフと組織的に連携し、実質的な業務時間を確保する。	4	週に1回以上	④	教職員の時間が確保されているという評価80%以上	①	3.5	教職員	85.2	各種スタッフと組織的に連携し、実質的な業務時間を確保している。	・業務の分担と、各種スタッフとの連携が、各々の負担感の軽減につながっている。 ・児童に接する時間や授業の準備をする時間など、教員にとって必要な業務時間を確保することができるようになってきている。	・今後も各種スタッフとの連携を継続する。 ・働き方改革として目指すものは、勤務時間外の業務時間の削減である。そのためには、「週の在校時間〇時間以内」「週に1度は定時退勤日設定」など、勤務時間に直結した評価方法も、検討の対象とする。	B	・今年度は負担や疲労が多かったと思うので、負担の軽減や改善は今後もチームワークで乗り越えていってほしい。子どもたちに接する時間が増えるようであってほしい。 ・可能な限りスタッフを増やし、教職員の負担が軽減するようにしてほしい。教職員の評価が低いので改善をお願いしたい。	
				③	月に2回以上	3	教職員の時間が確保されているという評価70%以上	②	3.0								
				2	月に1回以上	2	教職員の時間が確保されているという評価60%以上	③	4.0								
				1	月に1回未満	1	教職員の時間が確保されているという評価60%未満	④	2.5								